

武田薬品工業の成長戦略における知的財産部門の貢献実績

はじめに

武田薬品工業は、オンコロジー、消化器系疾患、神経科学、ワクチンを重点領域とする、研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。¹ 患者さんを中心に考えるという価値観を根幹に、2世紀以上にわたり、世界約80の国と地域で事業を展開しています。² 同社は、革新的な医薬品とワクチンを創出し、世界中の人々の健康とより良い未来に貢献することを目指しています。本稿では、武田薬品工業の成長戦略における知的財産部門の貢献実績について、公開情報に基づき考察します。

知的財産部門の役割と責任範囲

武田薬品工業の知的財産部門は、企業理念に基づき、患者さんのために、そして医療の未来のために、知的財産の保護と活用に取り組んでいます。³ 同社の統合報告書によると、知的財産部は、全社的な知的財産戦略をサポートするために、以下の3つの優先事項に注力しています。⁴

- 疾患領域別ユニットの戦略に沿った自社製品および研究開発パイプラインの価値の最大化および関連する権利の保護
- パートナーとの提携をサポートすることによる外部イノベーションの積極的な活用の促進
- 新興国市場を含む世界各国での知的財産権取得および保護

これらの優先事項から、武田薬品工業の知的財産部門は、特許の取得・管理、ライセンス契約、知的財産紛争への対応など、幅広い業務を担っていることが分かります。

成長戦略における具体的な貢献実績

武田薬品工業の知的財産部門は、以下の活動を通じて、同社の成長戦略に貢献しています。

特許取得による競争優位性の確保

武田薬品工業は、革新的な医薬品を開発し、特許を取得することで、競争優位性を確保しています。例えば、潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬「エンティビオ」は、これまでになかったメカニズムで作用するバイオ医薬品であり、特許によって保護されています。⁵ この薬剤はグローバルで8000億円を売り上げる主力製品となっており、2桁成長を続けています。⁶ 特許取得は、競合他社との差別化を図り、市場における優位性を築く上で重要な役割を果たしています。

オープンイノベーションの推進

武田薬品工業は、オープンイノベーションにも積極的に取り組んでおり、その中核となるのが湘南ヘルスイノベーションパーク（iPark）です。⁷ iPark は、武田薬品工業の湘南研究所をオープンイノベーションエコシステムに変革するというビジョンのもと、2017年に設立されました。ライフサイエンス研究に特化した設備を基盤に、産官学から60以上の企業・団体が結集し、最先端技術・知見を活用したアイデアやソリューションの創出、実現を加速化しています。⁷ iPark では、スタートアップ企業等に対して、知財面の支援も提供しており、⁸ 外部の技術やアイデアを取り込み、新たなイノベーションを創出することを目指しています。

知的財産制度の活用

武田薬品工業は、知的財産制度を積極的に活用し、研究開発の成果を保護しています。2020年には、湘南ヘルスイノベーションパークにおけるオープンイノベーションの推進や、知財制度を活用した製品開発の加速などが評価され、「知財功労賞」経済産業大臣賞を受賞しています。⁷ 同社は、10年前は主要製品の7割以上を自社で開発していましたが、近年では、外部からの導入や共同研究など、オープンイノベーションを活用した開発にシフトしており、その割合は約5割となっています。⁷ 知的財産制度を効果的に活用することで、研究開発の効率を高め、イノベーションを促進しています。

知的財産のポートフォリオ

武田薬品工業は、医薬品を中心とした広範な知的財産ポートフォリオを保有しています。特許以外にも、商標、意匠、著作権などの知的財産権を保有し、自社の製品やブランドを保護しています。⁹

同社の知的財産ポートフォリオの特徴を、コア特許とスペシャリティ医薬品の特許に焦点を当てて、以下の表にまとめます。

Feature	Core Patents	Specialty Pharmaceutical Patents
特許の数	少数	多数
権利範囲	広範	限定的

Feature	Core Patents	Specialty Pharmaceutical Patents
重要性	事業の根幹	ポートフォリオの多様化
リスク	特許切れによる事業への影響大	個別製品への影響は限定的
例	ブロプレス（高血圧症治療薬） ¹⁰	オビザー（後天性血友病 A 治療薬）、アジンマ（先天性血栓性血小板減少性紫斑病治療薬） ¹¹

コア特許

医薬品業界では、強力なコア特許を中心とした少数の特許ポートフォリオで構成されることが多い。場合によっては物質特許 1 件のみで、特許 1 件に対する重みが他分野と比較して非常に大きい傾向があります。⁹ コア特許は、医薬品の有効成分や製造方法などを保護し、競合他社による模倣を阻止することで、長期にわたる収益を確保する上で重要な役割を果たします。しかし、コア特許の特許切れは、後発医薬品の参入を招き、収益に大きな影響を与える可能性があります。例えば、高血圧症治療薬「ブロプレス」の特許切れは、武田薬品工業にとって大きな課題となっています。¹⁰

スペシャリティ医薬品

近年、大型製品の特許切れが課題となっており、武田薬品工業は、希少疾患治療薬など、スペシャリティ医薬品に注力することで、ポートフォリオの転換を図っています。^{6 11} スペシャリティ医薬品は、希少疾患や難病などの、患者数が少ない疾患を対象とした医薬品です。これらの医薬品は、高い薬価を設定できるため、収益性が高いという特徴があります。また、競合他社も少ないため、特許切れの影響を受けにくいというメリットもあります。武田薬品工業は、後天性血友病 A 治療薬「オビザー」や先天性血栓性血小板減少性紫斑病治療薬「アジンマ」など、複数のスペシャリティ医薬品を開発・販売しています。¹¹ これらの医薬品は、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する新たな治療選択肢を提供することで、患者さんの QOL 向上に貢献するとともに、武田薬品工業の収益の柱となることが期待されています。

組織構造と人材

武田薬品工業の知的財産部門の組織構造に関する詳細な情報は公開されていません。¹ しかし、同社はグローバルに事業を展開しており、知的財産部門も、世界各国の法規制に対応でき

る体制を構築していると考えられます。¹² 各国・地域の法規制や商習慣に精通した人材を配置し、グローバルな知的財産戦略を効果的に推進していることが伺えます。

人材に関しては、知的財産に関する専門知識や経験を持つ人材を採用し、育成しています。¹³ ¹⁴ 特許法、薬事法、契約法などに精通した法務専門家、特許出願・権利化、知財デューデリジェンスなどの実務経験豊富な弁理士、そして医薬品開発やライフサイエンス分野の専門知識を持つ人材など、多様な専門性を持つ人材が活躍しています。また、外部の専門家とも連携し、最新の知財動向に対応しています。¹⁵ 知的財産戦略を成功させるためには、優秀な人材の確保と育成が不可欠であり、武田薬品工業は、人材育成に力を入れていると考えられます。

予算と投資状況

武田薬品工業の知的財産部門の予算と投資状況に関する具体的な情報は公開されていません。¹ しかし、同社は、研究開発に重点的に投資しており、¹⁶ 知的財産部門に対しても、必要な予算を **allocated** し、人材やシステムへの投資を行っていると考えられます。近年は、AI やビッグデータといった技術を活用した知財戦略が重要性を増しており、これらの分野への投資も強化している可能性があります。¹⁷ AI による特許情報の分析、ビッグデータを用いた侵害リスクの予測など、デジタル技術の活用は、知的財産業務の効率化、高度化に貢献すると期待されます。

リスクマネジメント

武田薬品工業は、「グローバルリスク管理ポリシー」を策定し、リスクマネジメントを内部統制と一体となって機能するコーポレート・ガバナンスの重要な構成要素として捉えています。¹⁸ このポリシーは、重要なリスクの特定、測定、低減、報告を行うにあたり、統一された手順を提供しています。知的財産権に関わるリスクとしては、研究開発、知的財産権、特許権満了等による売上低下、副作用、薬剤費抑制策による価格引き下げ、為替変動、企業買収、カンントリーリスク、安定供給、訴訟、ITセキュリティおよび情報管理などがあげられます。¹⁸ 各部門の責任者は、担当領域ごとに、中期計画・年間計画の策定・実施の中で、計数面および定性面からリスクを管理するとともに、リスクの程度・内容に応じた対応策・コンティンジェンシープランに基づき回避措置、最小化措置を行っています。

企業の社会的責任

武田薬品工業は、世界中の人々の健康に貢献するために、医薬品アクセス (AtM : Access to Medicine) に関する中長期的な取り組みにも注力しています。⁵ 知的財産権に関わるアプローチとして、後発開発途上国や低所得国で特許出願や特許権の行使をしないこと等を宣言し、また AtM を改善するため WIPO および国際製薬団体連合会がリードした医薬品の特許情報公開システムにも参加しています。これらの活動が評価され、2018 年度 AtM インデックスでは世界 5 位を獲得しています。⁵ 医薬品アクセスへの取り組みは、企業の社会的責任を果たすとともに、長期的な視点で企業価値を高めることにつながると考えられます。

将来展望と課題

武田薬品工業の知的財産部門は、今後も、同社の成長戦略において重要な役割を担うことが期待されます。将来展望としては、以下の点が挙げられます。

- **デジタル技術の活用:** AI やビッグデータなどのデジタル技術を活用し、知財戦略の高度化を図る。⁵
- **グローバルな知財戦略の強化:** グローバルな事業展開を加速させる中で、各国・地域の法規制に対応した知財戦略を構築する。
- **オープンイノベーションの深化:** 湘南ヘルスイノベーションパークなどを活用し、オープンイノベーションをさらに推進する。⁷

一方、課題としては、以下の点が挙げられます。

- **特許切れへの対応:** 主力製品の特許切れに伴う収益減への対策。⁶
- **知財人材の確保:** グローバルな知財戦略を推進するための、専門知識と経験を持つ人材の確保。¹⁹
- **知財リスクの管理:** 知的財産紛争や模倣品対策など、知財リスクの適切な管理。⁸

結論

武田薬品工業の知的財産部門は、特許の取得・管理、オープンイノベーションの推進、知財制度の活用などを通じて、同社の成長戦略に貢献しています。同社の企業理念である「患者さんを中心に考える」という価値観は、研究開発戦略、そして知的財産戦略にも深く根付いています。⁴⁴ 特に、コア特許の重要性が高い医薬品業界においては、特許切れによるリスクを最小限に抑え、新薬開発を継続していくことが、持続的な成長のために不可欠です。⁹ 今後、デジタル技術の活用、グローバルな知財戦略の強化、オープンイノベーションの深化などを推進することで、武田薬品工業は、世界中の人々の健康に貢献し続けることが期待されます。

引用文献

1. 武田薬品 | Takeda Pharmaceuticals | グローバルウェブサイト, 1月 9, 2025 にアクセス、<https://www.takeda.com/jp/>
2. 2024 年度開始：武田薬品工業の新全社プログラムで事業成長と営業利益率改善を目指す, 1月 9, 2025 にアクセス、<https://www.takeda.com/jp/newsroom/newsreleases/2024/takeda-announces-enterprise-wide-program-to-support-growth-and-deliver-core-operating-profit-margin-improvement/>
3. サステナビリティ情報開示 | 武田薬品 - Takeda Pharmaceuticals, 1月 9, 2025 にアクセス、<https://www.takeda.com/jp/about/corporate-responsibility/corporate-sustainability/sustainability-approach/sustainability-disclosures/>
4. 武田薬品工業株式会社, 1月 9, 2025 にアクセス、<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20231214/20231207500286.pdf>
5. 吉村 隆氏 - 日本知的財産協会, 1月 9, 2025 にアクセス、https://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa/pdf/2019_Summer.pdf
6. 武田薬品、低迷続く国内事業「成長回帰」どう実現？ | AnswersNews - Answers (アンサーズ), 1月 9, 2025 にアクセス、<https://answers.ten-navi.com/pharmanews/28455/>

7. 令和2年度「知財功労賞」経済産業大臣賞を初受賞, 1月9, 2025にアクセス、
<https://www.takeda.com/ja-jp/announcements/2020/2/>
8. 武田薬品工業株式会社と意見交換を行いました - 特許庁, 1月9, 2025にアクセス、
<https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202306/2023060801.html>
9. The IPSN Quarterly - 知的財産戦略ネットワーク株式会社, 1月9, 2025にアクセス、
<https://www.ipasn.co.jp/ipasn/wp-content/uploads/2023/06/0280b2cb21941f5ff380406db6648ec7-1.pdf>
10. 武田薬品と第一三共を分析する 新薬特許切れと後発薬メーカー買収の影響は?, 1月9, 2025にアクセス、
<https://toyokeizai.net/articles/-/42788>
11. 武田薬品、国内で“新薬ラッシュ”...申請段階に6品目、ポートフォリオのスペシャリティ化進む, 1月9, 2025にアクセス、
<https://answers.ten-navi.com/pharmanews/27588/>
12. サポーターの紹介 | 医療系ベンチャー・トータルサポートオフィス: MEDISO, 1月9, 2025にアクセス、
<https://mediso.mhlw.go.jp/supporter/?fields=6&areas=3>
13. 採用情報 | 武田薬品国内サイト, 1月9, 2025にアクセス、
<https://www.takeda.com/ja-jp/recruitment/>
14. 採用情報 | 武田薬品, 1月9, 2025にアクセス、
<https://www.takeda.com/jp/careers/>
15. 【医薬品メーカー業界】知的財産(知財)・特許の転職・求人・中途採用情報 doda (デューダ), 1月9, 2025にアクセス、
https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchList/j_ind_0601S/-oc_020314S/-preBtn_2/
16. 武田薬品工業株式会社 - 札幌証券取引所, 1月9, 2025にアクセス、
https://www.sse.or.jp/wp-content/uploads/2024/07/20240710_45020_ged.pdf
17. 知的財産戦略 - 小野薬品工業株式会社, 1月9, 2025にアクセス、
https://www.ono-pharma.com/sites/default/files/ja/ir/library/integrated_report/2022_55-56.pdf
18. 企業倫理 | 武田薬品 - Takeda Pharmaceuticals, 1月9, 2025にアクセス、
<https://www.takeda.com/jp/about/corporate-responsibility/ethics-disclosures/ethics/>
19. 日経ユニバーシティ・コンソーシアム「知的財産からみたグローバル時代に求められる人財育成」, 1月9, 2025にアクセス、
<https://adnet.nikkei.co.jp/e/event.asp?e=00835>